

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 103

1961. 3月 (4月5日)

録 事

3月6～7日 ユネスコが委託している海洋生産力調査についての討論會が当所で開かれ、日本學術振興會から同學術部長新谷武衛氏、京大より石橋・速水・山本・福尾・宮地・根来・川那部の各氏、実験所より山路・布施・原田・高松の各氏が参加し、長年わたる研究結果の発表と、討論打合わせを行なった。

3月14～24日 原田研究員は中海方面の魚族生態調査のため出張。

3月15～21日 高松研究員は魚族の稚魚研究のため九大水産学教室に出張。

3月15～21日 芝脇・小芝両事務員は北九州の水族館視察のため出張。

3月22～23日 文部省学校施設部の服部鶴男氏は青藤舎三商店の石田取締役および新名義宣氏と共に増築水槽室の給排水系の設計打合わせのため来所。

3月28日 山路委員は日本生態学（京都で開催）出席と多奈川発電所取水路生物調査のため出張。

3月30日 原田研究員は日本生態学会出席のため京都へ出張。

3月31日 布施委員は高松研究員と日本生態学会出席のため出張。

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	10,330	138,341	布達委員京都行旅費
奨学金	—	60,000	
備品費	73,400	255,936	図書
消耗費	—	—	
刊行費	645,800	1,505,783	Ribl. vol. 8, no. 2及 vol. 8 総目次
役務費	—	123,370	
合 計	729,530	2,083,430	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	42,925	603,644	
備品費	1,600	63,290	スライド
消耗費	—	2,350	
役務費	10,200	19,180	海藻標本整理手当仕
合 計	54,725	688,464	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
缶缶式フランクトン株集試作費	169,000	
水族館建築推進費	11,570	
合 計	180,570	2,790,731

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	3,422,068	10,310,320
実験所経費	729,530	2,083,430
伝物館経費	54,725	688,464
臨時費	180,570	2,790,731
合 計	4,386,893	15,872,945

◎ 3月末現在高

前月よりの繰越	2,633,002
今月の収入合計	1,753,891
今月の支出合計	4,386,893
現 在 高	0

◎ 前年度との比較

	1960	1961	増 減
入 場 者 数	85132	94641	+ 9509

水族館記事

- ◎ 今月の珍しい入槽動物はハコエビ（胸甲長 12.6 cm）で、7日に南部のトロール漁船で採集されたものである。底に砂の敷いてある南側の第6水槽で飼育しているが餌付きも良く、活動性には乏しいものの、その姿態の奇妙さでお客を喜ばせている。
- ◎ タカアシガニが3個体、同じく南部のトロール漁船で採集され、7日入槽したが、そのうちの1個体を残してまもなく死んでしまった。メジナとかアカメフクとかの魚類と一緒に入れると、魚が殻に付着しているヒメエボシなどをつついてタカアシガニを逃げ廻らせているように見えたので、イセエビの水槽に移した。この残った1個体は29日にやっと最初のマアジの肉片を口にし、その後は順調に餌を取っている。
- ◎ 冬中独立に暖房してきたアカウミガメの仔は水槽は水温の上昇とともに隣接の熱帯性魚類の水槽と暖房装置を共用するように切り換えて、暖房の仕方を少なくした。（19～20℃を保持）アカウミガメの仔は現在29個体を残しており、甲長で6.2～8.7 cmに成長している。
- ◎ 一時は5個体を数えたニシギエビが次々に姿を消し、中旬には全滅した。
- ◎ 暖房水槽中で越冬したクマノミ2個体も元気でサンゴイソギンチャクと戯れている。水温は20～22℃である。
- ◎ 紀伊水道をマタイが上る季節となって、体長30 cm程のマタイが入槽した。
- ◎ タイドプール模型水槽には、仔魚ヤウミウシ類など春の嵐の動物を入れている。
- ◎ お断り一月来の飼育動物現在数調査が出来ませんでしたので、調査を4月始めに廻しました。

伝物館記事

- ◎ 前号（P.75）に報じた南部沖底曳採集動物中、所属不明の魚としたものは、京大水産学部の松原教授の査定により土佐柏島より昭和9年始めて報告されたトサヤツコ（*Holacanthus semifaciatus* Kamahara.）と判明した。珍しい種で、勿論紀州では始めてである。
- ◎ 3月21日水族館に1948年末飼育していたマタイの中、惜しくも大型の一匹（体長49 cm、全長58 cm、体高21.5 cm、体重3560 g）が夜間水槽よりとび出して死亡したので、愛惜のあまり標本として伝物館に保存することとした。

資 料

- ◎ 3月の気象 (9時観測)
 南水槽壁 (水温・比重はN0.27水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(19)	7	6	6
室 温(°C)	$\frac{10.4 \sim 16.3}{13.5}$	$\frac{10.5 \sim 17.7}{14.0}$	$\frac{12.4 \sim 15.4}{14.0}$
水 温(°C)	$\frac{12.80 \sim 15.76}{14.34}$	$\frac{12.63 \sim 16.45}{14.73}$	$\frac{14.28 \sim 15.58}{14.91}$
比 重(0.15)	$\frac{25.57 \sim 25.97}{25.83}$	$\frac{25.51 \sim 25.85}{25.71}$	$\frac{25.24 \sim 25.90}{25.60}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{13.72 \sim 16.54}{15.47}$	$\frac{14.20 \sim 16.87}{15.79}$	$\frac{15.00 \sim 16.78}{15.95}$
比 重(0.15)	$\frac{25.71 \sim 25.97}{25.83}$	$\frac{25.64 \sim 25.87}{25.75}$	$\frac{25.58 \sim 25.89}{25.76}$

来 訪 録

- 3月9日 近畿財務局和可山財務部長ほか2名が定殿所の国有財産視察
 3月14～16日 市川教授夫妻来所。
 3月17日 明治神宮々司甘露寺受長氏北白川夫人並にそのお孫さんの3人は参観のため来館。

昭和36年4月5日 (NO 103)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和可山泉 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel. 白浜温泉 515)